



## 古事記 (712年完成)

天皇家の系図と伝説を記した書物がそれぞれあったが、伝えられてきた内容が異なっていたため天武天皇がこれらの書物を一つにまとめて、稗田阿礼ひえだの あれ しょうしゅうに誦習させました。しかし、天武天皇は古事記の完成を見ないまま亡くなってしまい、元明天皇が稗田阿礼が暗唱した内容おおの やすまるを太安万侶に書き起こさせ、古事記が完成。上中下の3巻からなり変体漢文で書かれています。

上巻は伊弉諾尊いざなぎのみことと伊弉冉尊いざなみことが島を作ったところから、その孫である神武天皇の誕生までが記されている。この時できた「オノコロジマ」が淡路島です。皆さんも知っている「八岐大蛇」や「因幡の白兔」などの有名な神話も含まれています。

中巻に書かれているのは、神武天皇から応神天皇までの物語。日本武尊やまと たけるみことが草薙剣くさなぎのつるぎを授けられた神話もここに書かれています。

下巻は、古墳でご存じ、仁徳天皇から推古天皇までの物語が記されています。

にしても、この壮大な物語を誦習させた聖武天皇も聖武天皇ですが、稗田阿礼の記憶力は一体どんなものだったんでしょうね。しかも、たった4ヶ月で仕上げたと言われています。ちなみに、現在は写本のみが現存しており愛知県の宝生院が所有しており、去年名古屋市博物館で3巻同時展示があったそうです。（見たかった）

## 日本書紀 (720年完成)

日本最古の正史で、天武天皇の命で舍人親王とねり（天武天皇の第二皇子）などが関わり国家プロジェクトとして編纂へんさんが始まりました。

神代の時代から持統天皇の時代までが記されています。全30巻と系図1巻という壮大な内容です。

なぜ日本書紀が作られたかは明らかになっていませんが、奈良時代よりも前から中国大陸（隋や唐とか）や朝鮮半島（百済、新羅とか）と交流がありました。その時に、自分たちの国の成り立ちを明らかにし、自分たちは何者かを海外に対して訴える必要があったから？とも言われています。

日本書紀の編纂に立っては帝紀ていき（天皇の家系図）や旧辞きゅうじ（公的な政治の記録）、地域で言い伝えられていること、地方有力者の記録、個人のメモなど幅広い資料が集められました。また、中国の「三国志」や朝鮮半島の百済の歴史書なども参考にされたと言われています。今みたいに本が当たり前でなかった時代に資料集めだけでも相当大変だったことでしょうね。

漢文を使い、基本的には編年体へんねんたいで書かれています。しかし、日本書紀には和歌も含まれていて和歌は万葉がなで記されていました。また、中国や朝鮮半島の国々との外交や天変地異についても書かれています。

## 【用語】

- \*誦習：口に出して繰り返し唱えて覚えること
- \*変体漢文：日本語を漢文を手本にして、主に漢文だけで書くこと
- \*正史：国家などが編纂した歴史書。最も正当と認められた歴史書。
- \*編纂：いろいろな材料・資料を集め、手を加え書物とすること
- \*編年体：事実の起こった順に書くこと。

 国立公文書館のWEBサイト

<https://www.archives.go.jp/exhibition/digital/rekishitomonogatari/contents/01.html>